

5. 福知山市における公共交通に関する課題

5.1 問題点と課題の整理

公共交通の現況や利用実態調査、アンケート調査結果等を踏まえ、各地域のまちづくり方針と連携した市域全体を見渡した公共交通ネットワークの再構築に向け、以下の視点で課題・問題点を抽出しました。

① 住民等の年代別の移動手段の確保

② 適正な費用対効果の検証

③ 活力に満ちた地域社会の創造

5.1.1 住民等の年代別の移動手段の確保

○若年層の移動手段

- ・小中学校の統廃合に伴いスクールバスが導入されたことを背景として、平成 27 年度調査時点と比較して、小中学生の路線バスの利用の減少がみられました。(乗り込み調査より)
 - ・10 歳台は主に通学のために公共交通を利用しています。(市民アンケートより)
- ⇒通学手段としての公共交通の維持が必要なものの、利用者数が減少しているため、効率的な運用方法の検討が必要です。

○20 歳台以上の移動手段

- ・移動手段として、多くの方が自家用車を利用しているものの、自家用車の運転が難しくなった場合、代替する移動手段として路線バスを想定しているとの回答が最も多くみられました。(20%) (市民アンケートより)
 - ・コロナ禍の影響により路線バスの利用者数は平成 27 年度調査時と比較して、減少の傾向を示しています。(乗り込み調査より)
- ⇒コロナ禍の状況を踏まえた、移動手段の検討が必要です。
- ⇒高齢化の進展を見据えて、高齢者が自家用車の運転が困難になった時に公共交通の利用を検討できるよう、利用促進に取り組むことが必要です。

5.1.2 適正な費用対効果の検証

- ・バスの本数が少ないことや運行時間帯に関する要望が多くみられました。自由意見としてバスの利便性が低いことに対する不満や増便に対する要望がありました。(乗り込み調査より)
- ⇒路線の利用状況を踏まえて、運行経路・時間帯について見直しや、市内を運行するタクシーなどの路線バス以外の交通資源の活用や効率的な運行に向けた地域コミュニティ交通への転換などについての検討が必要です。
- ・福知山市の公共交通機関への財政支援の状況に対する認知度は約 75%で、財政負担が増えなくてもやむを得ないという意見や財政負担を増やさずに工夫すべき、公共交通も財政負担も現状を維持すべきという意見が多くみられました。(市民アンケートより)
- ⇒財政負担をしてでも運行維持が望まれる一方で、運行方法の工夫などによる運行維持も望まれる中で、福知山市の財政負担を今後増加させないためにも、運行水準について、公共交通事業者との継続的な協議が必要です。

5.1.3 活力に満ちた地域社会の創造

・公共交通機関の利用頻度は平日については平成27年度調査時と比較して大きな変化はみられませんでしたが、休日については利用者数が減少している傾向がみられました。(乗り込み調査より)

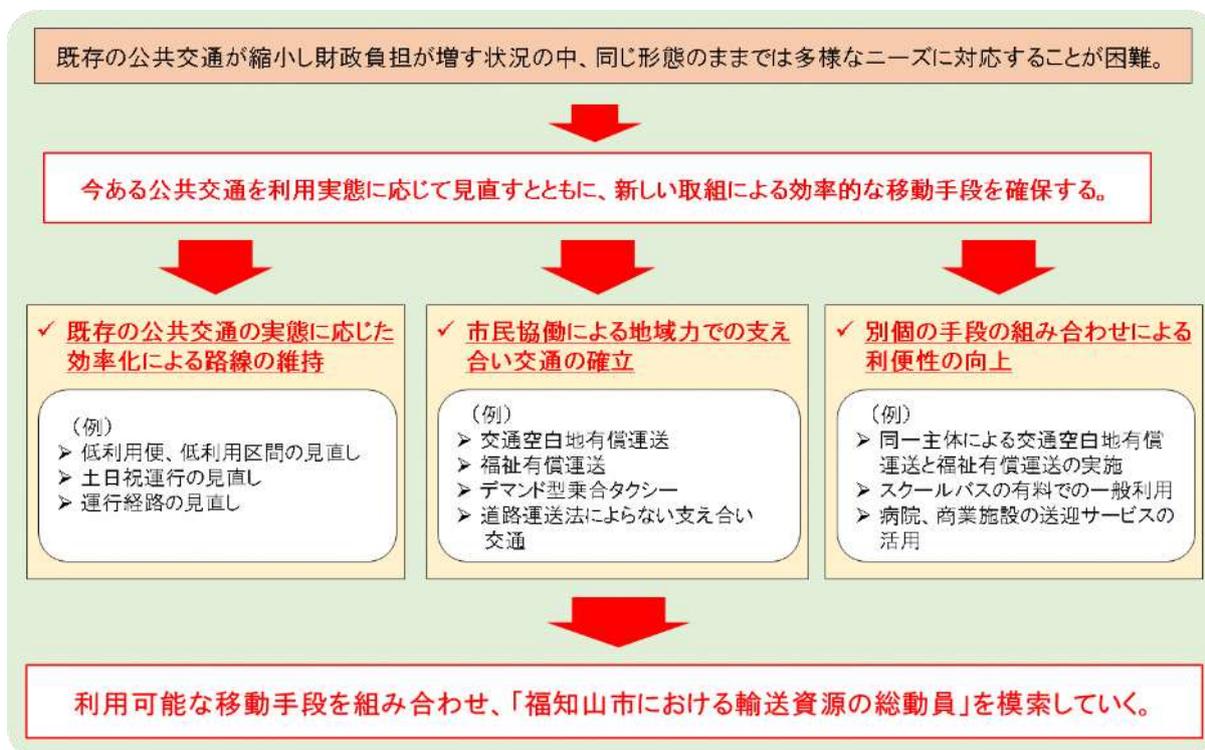
⇒コロナ禍であるため、不特定多数の方と接触する可能性のある公共交通機関の利用を控える意識が働いていることが考えられます。公共交通以外の移動手段を持っていない場合、公共交通の利用頻度の減少は外出頻度の減少につながるため、公共交通機関でのコロナウイルス対策実施状況の周知など、公共交通機関の利用率向上施策が必要です。

・福知山市敬老乗車券事業（75歳以上が対象）の認知度は全世代では43%、75歳以上は60%、福知山市高齢者運転免許証自主返納支援事業（75歳以上が対象）の認知度は全世代では57%、75歳以上は70%となっています。

⇒認知度の向上にむけて引き続き周知活動が必要です。

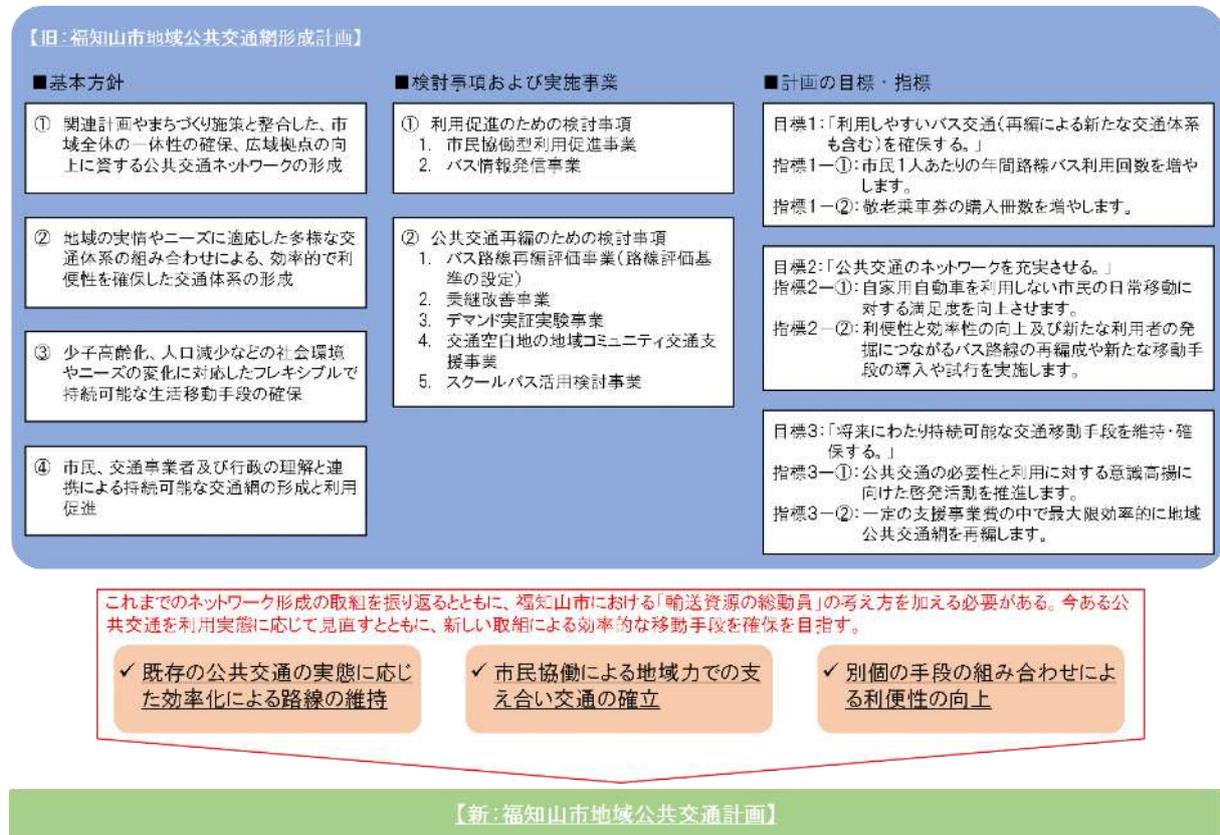
5.2 福知山市における輸送資源の総動員

既存の公共交通が縮小し財政負担が増す状況の中、同じ形態のままでは多様なニーズに対応することが困難です。今ある公共交通を利用実態に応じて見直すとともに、新しい取組による効率的な移動手段を確保する必要があります。



6. 福知山市における公共交通についての基本方針及び計画目標

福知山市地域公共交通網形成計画における基本方針や計画目標に対しての振り返りを行い、前章で抽出・整理した課題を基に新たな基本方針を設定します。



6.1 検討事項と実施事業の振り返り

6.1.1 利用促進に向けた当面の具体的事業の実施結果および効果

(1) 市民協働型利用促進事業

表 6-1 市民協働型利用促進事業

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実施結果及び効果
具体的な取組	内容	
モビリティ・マネジメント(MM)の推進	バスのバリアフリーに関する工夫や環境に優しい乗り物であることの理解と公共交通の必要性と利用に対する意識の啓発を実施します。 (平成 28 年度～令和2年度)	3校で実施し、児童・保護者へのアンケートから、今後、バスを利用したいという意見があり、バスの必要性を理解いただきました。 H28.11.17 美河小学校(1・2年生 38 人) H29.11.10 成仁小学校(5年生 59 人) H30.10.31 上川口小学校(5年生 10 人)
学校訪問説明会の開催	高校生の通学利用を促進するため、中学校や高校の入学予定者説明会などで路線バスについての説明を実施します。 (平成 28 年度～令和2年度)	説明会の実施要望がなく、実施に至らず。
路線バスおでかけツアーの実施	路線バスを利用して商業施設や公共施設にアクセスできることを体験してもらいます。 (平成 28 年度～令和2年度)	各種イベントにバスを活用してもらうことで、バスの乗り方や利便性を知ってもらうことができました。 ・まちなか循環バスを利用したウォーキングイベント。(H29.2.2)(主催:+1000 歩の会、参加者:50 人) ・子育て団体によるまちなか循環バス体験乗車。(H30.2.21、H31.2.26)
親子バス体験乗車会の開催	乗り物が大好きな幼児に楽しんでもらえるような親子バス体験乗車会を開催します。 (平成 28 年度～令和2年度)	夏休み子どもお出かけバスチケット事業を実施し、家族でバスを利用するきっかけづくりとなりました。 ・利用枚数 H29=174 枚 H30=113 枚 R1=165 枚 R2=75 枚 ・事業者別内訳(4か年合計) 京都交通=69.8% 西日本ジェイアールバス=9.7% 丹後海陸交通=1.7% 三岳バス=0% 庵我バス=6.3% 中六人部バス=1.7% 市バス三和=2.5% 市バス夜久野=1.0% 市バス大江=7.4%

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実施結果及び効果
具体的な取組	内容	
スタンプラリーの実施	バス利用のきっかけとなるようなスタンプラリーを実施します。 (平成 28 年度～令和2年度)	市内バス路線を使ったイベントの実施団体がなく、実施に至らず。
市内イベント路線バス活用事業	市内で行われるイベントのチラシにバス路線や時刻表を掲載し、公共交通での来場を呼びかけます。また公共交通のダイヤに配慮した開催時間を検討します。 (平成 28 年度～令和2年度)	やくの高原まつりや大江山酒呑童子祭りのイベントチラシに、バス時刻表や乗り継ぎ情報を掲載しました。
バス車両デザインの公募	愛着の持てるバスラッピングを公募します。 (平成 28 年度～令和2年度)	平成 28 年度更新の市バス畑線についてラッピングデザインを公募し、「しだれ桜」「銀河鉄道」を連想させるシンプルな桜と星の親しみやすいデザインとしました。 
敬老乗車券事業	高齢者を対象としたお得な共通乗車券により公共交通の利用促進を行います。出張臨時販売を実施して購入しやすくします。 (平成 25 年度から実施中)	【敬老乗車券販売実績】 H28:4,055 冊 H29:4,083 冊 H30:3,872 冊 R1 :4,188 冊 R2 :3,111 冊
運転免許証自主返納者への支援	運転免許証の自主返納のきっかけづくりと、応援協賛事業者との協働により自主返納者を支援します。 (平成 26 年度から実施中)	【運転免許証自主返納支援事業申請者数】 H28:194 人 H29:230 人 H30:241 人 R1 :298 人 R2 :199 人

(2) バス情報発信事業

表 6-2 バス情報発信事業

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実施結果及び効果
具体的な取組	内容	
わかりやすい時刻表と路線図の発行	わかりやすく便利な時刻表及び路線図を作成します。 (平成 28 年度～令和2年度)	時刻表にQRコードを掲載して、スマホ等で各路線の運賃を確認したり、森の京都NAVIアプリをダウンロードできるようにした「福知山市内バス路線マップ時刻表&レール時刻表」を年に1回発行しました。
出前講座の開催	路線バスに対する関心を持ってもらうため、定期的に路線ごとの利用者状況、収支状況等について、路線評価基準と対比しながら公表し、利用促進を図るとともに、改善されない場合には、運行内容見直し路線となることを事前に周知します。 (平成 28 年度～令和2年度)	令和 2 年 10 月 27 日 出前講座実施 令和 2 年 11 月 7 日 出前講座実施
広報ふくちやま及び市ホームページによる利用促進の呼びかけと、利用者状況、収支状況等の定期的な公表	路線バスの利用促進に向けた呼びかけを行うとともに、路線バスに対する関心を持ってもらうため、定期的に路線ごとの利用者状況、収支状況等について、路線評価基準と対比しながら公表し、利用促進を図るとともに、改善されない場合には、運行内容見直し路線となることを事前に周知します。 (平成 28 年度～令和2年度)	広報ふくちやま平成 28 年 12 月 1 日号で市バスの利用状況を公表し、運行内容の見直し検討について周知しました。また、路線再編にあたっては、地域説明会や全戸配布チラシ等によりバスの運行状況を周知しました。 見直しが必要な路線については、実績値を明示することで、地域住民の理解を得ることができました。
交通結節点におけるわかりやすい情報提供の検討	駅やバス停など乗り換えが多い場所において、わかりやすい案内を検討します。また、鉄道駅ホーム内に路線バスの時刻表を掲示するなど、乗り継ぎしやすい情報を提供します。 (平成 28 年度～令和2年度)	需要の多い市民病院、福知山城へのバスの時刻をまとめたポスターを福知山駅北口に掲示しました。(R2.4から)
わかりやすい車両やバス停の行き先表示	車両やのりば、バス停において、わかりやすい表示を行います。 (平成 28 年度～令和2年度)	車両に行先表示板を設置し行先を明示しています。また、バス停の時刻表に行先を表示しています。 道路の片方にしかバス停が設置できていない所については引き続き表示方法を検討していきます。
公共交通利用実態市民アンケートの実施	形成計画に基づいた再編事業の評価を行うため公共交通の利用実態やその満足度に関する市民アンケートを行います。 (平成 31(令和元)年度～令和2年度)	令和2年度に市民アンケート調査を実施しました。

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実施結果及び効果
具体的な取組	内容	
路線バス沿線の行楽情報の発信	沿線のタイムリーな行楽情報を発信することで、利用促進を図ります。 (平成 28 年度～令和2年度)	「路線マップ時刻表&レール時刻表」にモデルコースや森の京都 NAVI アプリの QR コードを掲載しました。
ホームページの刷新	緊急時の運休情報やわかりやすいバス情報を発信するため、ホームページを刷新します。 (平成 28 年度～令和2年度)	令和元年度に市ホームページ全体を刷新しました。 緊急時の運休情報等については、都度、新着情報として掲載しております。また、民間バスについては、ダイヤ改正等の情報をタイムリーに反映するため、民間バス会社のホームページへのリンクを掲載しています。

6.1.2 公共交通再編に向けた具体的事業の実施結果および効果

(1) バス路線再編評価事業（路線評価基準の設定）

表 6-3 バス路線再編評価事業（路線評価基準の設定）

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実施結果及び効果
具体的な取組	内容	
路線評価基準の検討及び設定	1便あたり利用者数、収支率、運賃 100 円を得るために必要な経費、1人当りの市財政負担額など、一定の基準項目と数値の設定を検討します。 (平成 28 年度～令和2年度)	福知山市地域公共交通再編実施計画においてバス路線評価基準を設定しました。 【路線評価基準】 ①収支率 民間バス 40%未満 自主運行バス 30%未満 市バス 10%未満 ②路線1便当り平均乗車人数 1.0 人以下 ③利用者1人当り市財政負担額 1,000 円/人以上
評価基準に基づく「運行内容見直し路線」の選定	決算の数値にて、評価基準に基づく評価を行い、「運行内容見直し路線」を選定します。 (平成 28 年度)	福知山市地域公共交通再編実施計画において、路線評価基準に基づく全路線の評価を実施しました。 1項目以上該当する路線を見直し検討の対象としていきます。
「運行内容見直し路線」の公表	選定した「運行内容見直し路線」の公表を行います。 (平成 28 年度)	路線評価結果が記載された福知山市地域公共交通再編実施計画を市ホームページで公表しました。
住民懇談会の実施	地域住民に対して、選定した「運行内容見直し路線」についての説明を行うとともに、地域に適した運行形態、運行体系への再編について協議や検討を行います。また、「便数の削減」、「運行体系の変更」、「路線が廃止になる可能性がある場合には地域主体による新たな運行の検討」などを説明します。 (平成 28 年度)	地域説明会において、路線評価基準と現状、路線再編案や地域が主体となって実施する代替交通の導入検討について説明を行いました。
住民アンケートの実施 地域による利用促進の推進	評価内容の説明と今後の利用変化の意向を確認します。 (平成 28 年度～令和2年度)	平成 29 年度 まちなか循環バスアンケート 平成 29 年度 三岳バスアンケート 令和2年度 大江地域市バスアンケート

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実施結果及び効果
具体的な取組	内容	
運行内容の検討・利用者負担の検討	運行内容(運行形態・ルート・ダイヤ・運賃)の検討を行います。 (調整可能なものから順次) (平成 28 年度～令和2年度)(市バスのみ)	主に市バスと自主運行バスについて、曜日や便ごとの実態に応じた見直しを進め、効率性の向上と利便性の確保を図りました。運行内容の見直しにあたっては、路線全体だけでなく便毎の利用状況を確認し、実態に即したルート・ダイヤの検討を行いました。
見直し内容の決定	見直し内容の決定を行います。(調整可能なものから順次) (平成 28 年度～令和2年度)(市バスのみ)	運行内容の見直しについては、随時地域公共交通会議で協議を行いました。
見直し内容の実証実験	見直し内容の実証実験を行います。(調整可能なものから順次) (平成 28 年度～令和2年度)(市バスのみ)	運行内容の見直しについては、実証実験期間を設けず、それに変わる措置として、利用実態の把握やアンケート等によるニーズの把握、地域説明会の開催等により十分検討を行った上で実施しました。
見直し後の本格運行	見直し後の本格運行を開始します。 (調整可能なものから順次) (平成 28 年度～令和2年度)(市バスのみ)	バス路線見直し後の本格運行により、市バス運行にかかる経費が削減され、中六人部バスでは減少していた利用者数が増加に転じました。 平日と比較して利用の少ないまちなか循環バス北ルートの土日祝の運行を、福知山城から御霊公園へと周遊する光秀ルートに切り替え、増加する観光客のニーズに対応しました。 【本格運行実績】 ・H29.10 三和市バス減便 ・H30.4 三和市バス土曜日運休 ・H31.4 三和市バス 減便 ・H31.4 庵我バス 経路変更 ・H31.4 中六人部バス乗降制限解除 ・R1.10 まちなか循環バス経路変更 ・R2.4 庵我バス 日祝運休 ・R2.9 三岳バス 経路変更、乗降制限解除
評価基準項目に基づく財政支援	決算の数値にて、評価基準項目に基づく財政支援を行います。 (平成 28 年度～令和2年度)	評価基準には財政支援に関する項目を設けていません。(路線の見直しや乗合交通としての必要性を検討するための評価基準として設定しています。)
「評価基準項目に基づく財政支援」について公表	「評価基準項目に基づく財政支援」について公表します。 (平成 28 年度～令和2年度)	評価基準には財政支援に関する項目を設けていません。(路線の見直しや乗合交通としての必要性を検討するための評価基準として設定しています。)

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実施結果及び効果
具体的な取組	内容	
再編実施計画の検討	再編実施計画の策定が必要となれば、策定のための協議を順次開始します。 (平成 28 年度～令和2年度)	福知山市地域公共交通再編実施計画策定委員会を設置し、計画策定について協議を行い、関係者による合意形成を図りました。
再編実施計画策定のための調査	再編実施計画策定のための調査を実施します。 (平成 28 年度～令和2年度)	福知山市地域公共交通再編実施計画策定に係り、業務委託を発注し調査を実施し、再編の方向性の基となる、本市の公共交通の路線や便ごとの詳細な現状や地域のニーズ等を把握しました。
再編実施計画の策定	再編実施計画を策定することにより、再編を計画的に推進していきます。 (平成 28 年度～令和2年度)	各種調査結果を踏まえて、平成 29 年8月に「福知山市地域公共交通再編実施計画」を策定しました。
車両の最適化	車両の更新時期に合わせて、需要にあった乗車定員の車両に更新します。その際には、バリアフリー化(低床バスの導入)についても可能な限り配慮します。 (平成 28 年度～令和2年度)	利用実態に応じた車両に更新し、効率化を図り、三岳では小型化に合わせて細部運行を開始しました。また、オートステップや手すりの設置等、可能な範囲で誰もが利用しやすい車両の整備を行いました。 【バス車両更新実績(H28以降)】 ・H29.2 夜久野市バス 23 人乗り →10 人乗り(オートステップ・手すり付き) ・H31.4 三岳バス 25 人乗り →14 人乗り(オートステップ・手すり付き) ・H31.4 中六人部バス 25 人乗り →14 人乗り(オートステップ・手すり付き)
利用実態に合わせた利用しやすいダイヤ改正の検討	利用者の利用実態を把握し、地域のニーズと利用予測に見合った利用しやすいダイヤ改正を検討します。 (平成 28 年度～令和2年度)	市バスのダイヤについては、幹線バス路線や鉄道との接続、乗務員への利用実態の聴き取りを行い、都度改正を行いました。事業者が運行するバスについては、事前調整の中で市の要望を伝え、可能な範囲で調整を行いました。

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実施結果及び効果
具体的な取組	内容	
地域公共交通再編事業	<p>形成計画、再編実施計画に基づいたバス路線の再編や新たな移動手段の導入や試行を行います。 (平成 28 年度～令和2年度)</p>	<p>市バスについては、三和地域において段階的な見直しと交通空白地有償運送「みわひまわりライド」やスクールバス一般混乗の導入を行いました。</p> <p>自主運行バスについては、三岳バスと庵我バスの経路見直しや庵我バスと中六人部バスの乗降制限解除を行いました。</p> <p>川北地域と下豊富地域において、デマンド型乗合タクシーの実証実験を行いました。</p> <p>今後、夜久野地域についても、地域と協議を進めていきます。</p>

(2) 乗継改善事業

表 6-4 乗継改善事業

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実施結果及び効果
具体的な取組	内容	
民間路線バスと自主運行バスの乗降制限に関する協議	市域全体を見渡したバス利用者の乗り継ぎ改善と利用促進の観点から、現在協定により一部乗降が制限されている区間について協議を行います。 (平成 28 年度～令和2年度)	市内の乗降制限が全て解除され、中六人部バスでは減少していた利用者数が増加に転じました。 <ul style="list-style-type: none"> ・H31.4 中六人部バスと西日本ジェイアールバス園福線との乗降制限解除。 ・H31.4 庵我バスの日本交通三段池公園線への乗り入れ。 ・R2.9 三岳バスと京都交通バス夜久野線との乗降制限解除。
乗継ダイヤの調整	鉄道のダイヤ改正に合わせたバスの時刻改正やバスからバスへの乗り継ぎ利用者の利便性の向上を目指し、乗り継ぎ実態に応じた必要な調整を行います。 (平成 28 年度～令和2年度)	鉄道や幹線バス路線のダイヤ改正に合わせて、随時市バスのダイヤ調整を行い、限られたダイヤの中で効率的な乗り継ぎができるようにしました。
乗継割引制度の可能性の検討	市域全体を見渡したバス利用者の乗り継ぎ改善と利用促進の観点から、自社間及び他社との割引制度の可能性について検討します。 (平成 28 年度～令和2年度)	運行事業者との調整ができず実施に至らず。 乗継割引については、割引分をどの事業者が負担するのかという課題について、継続的に議論していきます。
乗継拠点、待合環境の整備	乗り継ぎ利用者の実態に応じて、必要な拠点での乗り継ぎ環境の確保を目指し、乗り継ぎ拠点、待合環境の整備を検討します。 (平成 28 年度～令和2年度)	各地域において、バス停へのベンチ設置や待合所の清掃等、待合環境の改善等に協力いただきました。

(3) デマンド実証実験事業

表 6-5 デマンド実証実験事業

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実施結果及び効果
具体的な取組	内容	
見直し路線についてデマンド型の運行案の検討	バス路線評価基準に基づき、見直しを要する路線等についてデマンド型の運行システムの導入を検討します。 (平成 28 年度～令和2年度)	京都交通バス川北線、小牧線沿線で実施を検討し、デマンド型乗合タクシーの実証実験の実施につながりました。
対象地域の利用実態調査	利用者の実態を把握し、地域のニーズに合った運行体系を検討します。 (平成 28 年度～令和2年度)	乗降調査やアンケートにより利用実態やニーズの把握を行いました。
住民説明	デマンド運行案の説明を実施します。 (平成 28 年度～令和2年度)	地域説明会や全戸配布チラシにより運行内容の説明を行いました。今後も継続的な周知活動を行っていきます。
再編実施計画の策定	必要に応じて再編実施計画を策定します。 (平成 28 年度～令和2年度)	平成 29 年8月「福知山市地域公共交通再編実施計画」を策定しました。
実証実験開始	見直し内容の実証実験を開始します。(調整可能なものから順次) (平成 28 年度～令和2年度)	実証実験を実施により、運行実績のデータ収集ができました。引き続きデータの収集と制度化に向けた検証を行っていきます。 ・H29.3 川北デマンドタクシー実証実験 ・R1.10 姫髪乗合タクシー実証実験

(4) 交通空白地の地域コミュニティ交通支援事業

表 6-6 交通空白地の地域コミュニティ交通支援事業

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実施結果及び効果
具体的な取組	内容	
運行事業者との運行体系案の検討	運行主体とともに必要な運行体系案について検討を実施します。 (平成 28 年度～令和2年度)	平成 27 年度から平成 28 年度にかけて、三和地域協議会と三和地域の公共交通再編(市バス再編、交通空白地有償運送導入)について協議・検討を行いました。
関係者との調整の支援	関係事業者と実施主体との調整の支援を実施します。 (平成 28 年度～令和2年度)	平成 29 年8月、有償運送運営協議会を開催し、三和地域協議会が運行する交通空白地有償運送について協議を行いました。
法的手続きの支援	実施主体による運輸局等への手続きについての支援を実施します。 (平成 28 年度～令和2年度)	平成 29 年 10 月から三和地域において、三和地域協議会が運行する交通空白地有償運送「みわひまわりライド」が運行開始しました。

(5) スクールバス活用検討事業

表 6-7 スクールバス活用検討事業

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実施結果及び効果
具体的な取組	内容	
教育委員会、学校、PTA等との今後の活用の可能性について協議	路線バスの利用実態とスクールバスの運行状況を分析する中で、今後の可能性について検討を実施します。 (平成 28 年度～令和2年度)	平成 30 年度、三和地域でのスクールバス一般混乗に向け、実施内容について、教育委員会、学校、PTA等と協議・調整を行いました。
活用案の検討と関係者との調整	活用案の検討と関係者との調整を実施します。 (平成 28 年度～令和2年度)	平成 30 年度、三和地域でのスクールバス一般混乗に向け、実施内容について、教育委員会、学校、PTA等と協議・調整を行いました。
法的手続きの支援	文部科学省や運輸局等への手続きを実施します。 (平成 28 年度～令和2年度)	平成 31 年4月から三和地域において、スクールバス一般混乗を開始しました。

6.2 計画目標の達成状況

目標1：利用しやすいバス交通（再編による新たな交通体系も含む）を確保する。

【指標1-①】 市民1人あたりの年間路線バス利用回数を増やす。 利用回数／総人口							
福知山市地域公共交通網 形成計画 記載事項		実績及び評価					
計画策定時の 数値	目標値	H28実績	H29実績	H30実績	H31(R1) 実績	R2実績	達成状況 ○達成 △一部着手 ×未達成
6.7回 (平成26年度) 541,404回 ／80,760人	7.0回	6.8回 544,699回 ／79,534人	7.6回 600,437回 ／79,049人	7.3回 573,473回 ／78,612人	7.1回 552,463回 ／77,743人	5.5回 424,615回 ／77,122人	×
※利用回数はバス事業年度(前年10月から当年度9月まで) ※総人口は当年3月末時点							
<p>総人口と利用回数の推移</p>				<p>1人当たり利用回数</p>			
評価							
<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が大幅に減少し、目標未達成となった。 しかし、平成26年度から令和元年度にかけては利用者数が541,404人→552,463人と11,059人増加しており、目標を達成できていた。この期間では西日本ジェイアールバス、自主運行バス、市バスは減少したが、丹後海陸交通は微増、京都交通は約34,000人増加。特に大江線や福知山綾部線等の路線が増加しており、通学利用が増加しているものと思われる。</p>							

【指標1-②】 敬老乗車券の購入冊数を増やす。									
福知山市地域公共交通網 形成計画 記載事項		実績及び評価							
計画策定時の 数値	目標値	H28実績	H29実績	H30実績	H31 (R1) 実績	R2実績	達成状況 ○達成 △一部着手 ×未達成		
3,648冊 (平成26年度)	4,000冊	4,083冊	3,872冊	3,272冊	4,188冊	3,111冊	×		
販売冊数等推移									
販売冊数	販売箇所	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2
	福知山市役所	2,570冊	2,646冊	2,978冊	3,024冊	2,875冊	2,443冊	3,187冊	2,362冊
	三和支所	359冊	251冊	290冊	296冊	286冊	224冊	261冊	202冊
	夜久野支所	233冊	268冊	276冊	292冊	226冊	202冊	258冊	168冊
	大江支所	392冊	326冊	380冊	316冊	349冊	259冊	405冊	313冊
	出張販売(市民病院)	47冊	66冊	53冊	16冊	10冊	28冊	7冊	6冊
	出張販売(大江分院)	32冊	19冊	-	23冊	-	20冊	-	8冊
	運転免許証自主返納特典分	-	72冊	78冊	116冊	126冊	96冊	70冊	52冊
	販売冊数合計	3,633冊	3,648冊	4,055冊	4,083冊	3,872冊	3,272冊	4,188冊	3,111冊
	利用可能額	10,899,000円	10,944,000円	12,165,000円	12,249,000円	11,616,000円	9,816,000円	12,564,000円	9,333,000円
利用額	9,183,100円	9,687,800円	10,645,100円	10,555,800円	9,815,200円	8,003,800円	9,797,000円	7,048,600円	
利用率	84.3%	88.5%	87.5%	86.2%	84.5%	81.5%	78.0%	75.5%	
※数値は行政年度 ※利用額、利用率は翌年度利用を含む									
評価									
<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により販売冊数が大幅に減少し、目標未達成となった。 しかし、令和元年度時点では目標は達成しており、高齢者の一定の移動支援が図られた。 なお、平成30年度販売分より、敬老乗車券の有効期限を翌年度末から当年度末へと変更した。</p>									

目標 2 : 公共交通のネットワークを充実させる。

【指標2-①】 自家用自動車を利用しない市民の日常移動に対する満足度を向上させる。

福知山市地域公共交通網 形成計画 記載事項		実績及び評価					
計画策定時の 数値	目標値	H28実績	H29実績	H30実績	H31 (R1) 実績	R2実績	達成状況 ○達成 △一部着手 ×未達成
満足 : 31.8% やや満足: 23.6% やや不満: 28.2% 不満 : 16.4% (平成27年度)	満足 : 40% やや満足: 30% やや不満: 15%以下(半減) 不満 : 10%以下(半減)	-	-	-	-	満足 : 41.4% やや満足: 31.3% やや不満: 20.2% 不満 : 7.1%	△
評価							
<p>令和2年度地域公共交通計画作成調査業務の中で住民アンケート調査を実施。 「やや不満」は目標未達となったが、「満足」、「やや満足」、「不満」は目標値を達成しており、全体的には満足度が向上したと言える。</p>							

【指標2-②】 利便性と効率性の向上及び新たな利用者の発掘につながるバス路線の再編成や新たな移動手段の導入や試行を実施する。

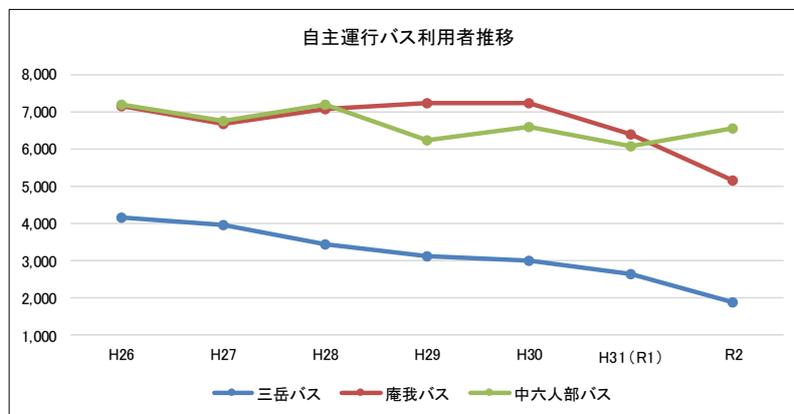
福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実績及び評価					
計画策定時の数値	目標値	H28実績	H29実績	H30実績	H31 (R1) 実績	R2実績	達成状況 ○達成 △一部着手 ×未達成
0件 (平成27年度)	6件	1件	3件	3件	8件	9件	○
①H29.3=川北デマンドタクシー実証実験 ②H29.10=市バス三和再編 ③H29.10=みわひまわりライド実証実験 ④H31.4=スクールバス一般混乗 ⑤H31.4=庵我バス再編 ⑥H31.4=中六人部バス再編 ⑦R1.10=姫髪乗合タクシー実証実験 ⑧R1.10=まちなか循環バス再編(光秀ルート運行開始) ⑨R2.9=三岳バス再編							

自主運行バスの利用者数推移

(単位:人)

地域	再編内容	再編時期	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2
三岳バス	乗降規制解除及び路線見直し	R29.1	4,170	3,961	3,459	3,125	3,020	2,662	1,915
庵我バス	乗降規制解除及び路線見直し	R2.4.1	7,155	6,683	7,072	7,243	7,240	6,408	5,178
中六人部バス	乗降規制解除	H31.4.1	7,181	6,763	7,184	6,230	6,599	6,079	6,538
合計			18,506	17,407	17,715	16,598	16,859	15,149	13,631

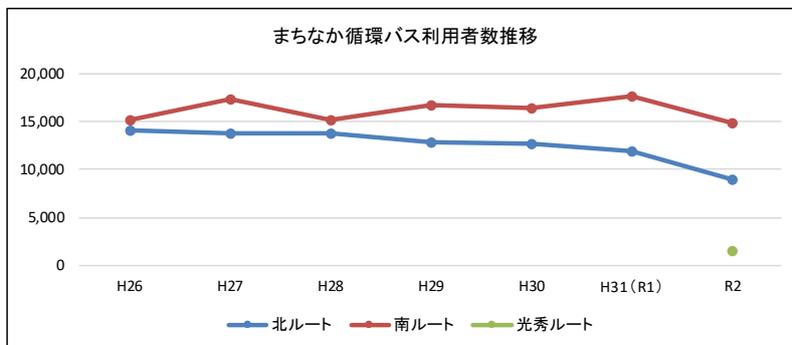
※数値はバス事業年度(前年度10月から当年度9月まで)



まちなか循環バスの利用者数推移 (単位:人)

地域	H26	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
北ルート	13,996	13,825	13,725	12,768	12,693	11,960	8,898
南ルート	15,086	17,301	15,112	16,745	16,429	17,618	14,807
光秀ルート							1,508
合計	29,082	31,126	28,837	29,513	29,122	29,578	25,213

※数値はバス事業年度(前年度10月から当年度9月まで)



みわひまわりライド利用実績

	H29.10~	H30	H31(R1)	R2
利用回数	191回	700回	969回	633回
稼働日数	68日	192日	207日	195日
稼働日当たりの利用回数	2.8回	3.6回	4.7回	3.2回
会員数	66人	90人	126人	139人

※数値は行政年度 ※会員数は年度末時点

スクールバス一般混乗利用実績

	H31(R1)	R2
一般	0人	0人
中学生	34人	96人
小学生	214人	360人
合計	248人	456人

※数値は行政年度

姫髪乗合タクシー利用実績

	R1.10~	R2
利用人数	100人	129人
稼働便数	64便	118便
乗合率	1.56人	1.09人

※数値は行政年度

評価

三和地域において、市バスの段階的な見直し、交通空白地有償運送「みわひまわりライド」やスクールバス一般混乗の導入を行い、下豊富地域において、デマンド型乗合タクシー「姫髪乗合タクシー」の実証実験を行った。また、庵我バスや三岳バスの経路見直しと乗降制限解除や中六人部バスの乗降制限解除を行った。さらに、まちなか循環バスの再編を行い、光秀ルートの運行を開始した。これらにより、地域それぞれの状況やニーズに応じた移動手段の確保やその検討が実施された。

目標3：将来にわたり持続可能な交通移動手段を維持・確保する。

【指標3-①】 公共交通の必要性と利用に対する意識高揚に向けた啓発活動(MM:モビリティマネジメント)を推進する。							
福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実績及び評価					
計画策定時の数値	目標値	H28実績	H29実績	H30実績	H31(R1)実績	R2実績	達成状況 ○達成 △一部着手 ×未達成
2回(校) 10/15細見 10/27成仁 (平成27年度)	年3回(校) 程度	1回(校) 11/17 美河小 1・2年生38人	1回(校) 11/10 成仁小 5年生59人	1回(校) 10/31 上川口小 5年生10人	0回(校)	0回(校)	△
評価							
<p>毎年、市内各小学校宛てにMMの実施を依頼しているが、学校のカリキュラムの関係もあり、目標値は達成できなかった。しかし、MM実施後の児童及び保護者アンケートでは、ほとんどバスを利用していなかったが、今後は利用しようと思うという意見があり、公共交通に対する意識向上の効果があつた。</p> <p>※MM(モビリティマネジメント) コミュニケーションを通じて促す交通施策のこと。公共交通の必要性、環境問題や健康への影響などについて情報提供を行い、自家用車から公共交通利用などへの転換を促します。</p>							

【指標3-②】 一定の支援事業費の中で最大限効率的に地域公共交通網を再編する。
 ※路線バス等(新たな交通体系含む)に係る補助金、市バス委託料、自家用有償旅客運送事業への支援事業費の合計額(鉄道除く)

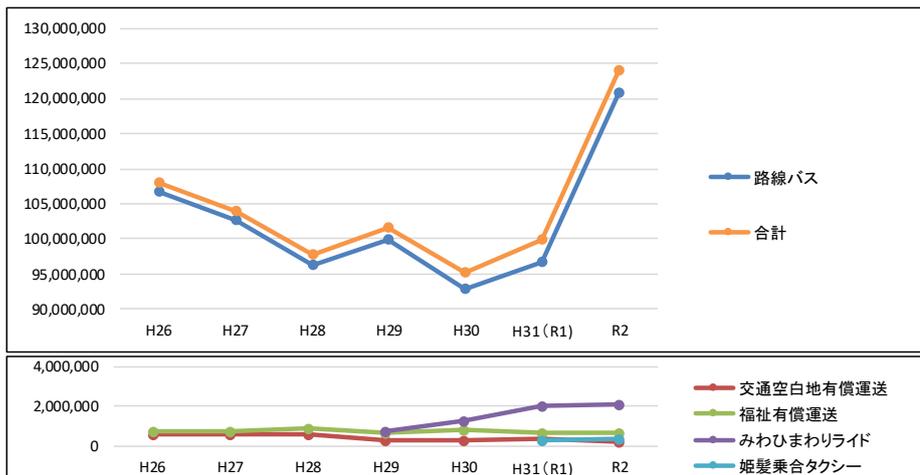
福知山市地域公共交通網 形成計画 記載事項		実績及び評価					
計画策定時の 数値	目標値	H28実績	H29実績	H30実績	H31(R1)実績	R2実績	達成状況 ○達成 △一部着手 ×未達成
103,988,153円 (平成27年度)	市財政負担額が 平成27年度決算 額を上回らない	97,723,480円	101,657,224円	95,267,661円	99,907,660円	124,010,461円	×

市財政負担額の推移 (単位:円)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
路線バス	106,667,650	102,631,153	96,257,480	99,870,224	92,834,661	96,621,795	120,716,373
交通空白地有償運送	575,000	581,000	593,000	327,000	320,000	329,000	184,000
福祉有償運送	767,000	776,000	873,000	702,000	817,000	653,000	700,000
みわひまわりライド				758,000	1,296,000	2,000,000	2,077,000
姫髪乗合タクシー						303,865	333,088
合計	108,009,650	103,988,153	97,723,480	101,657,224	95,267,661	99,907,660	124,010,461

※数値はバス事業年度(前年度10月から当年度9月まで)

※鉄道を除く、路線バス等(新たな交通体系含む)に係る補助金、市バス委託料、自家用有償運送事業への支援費の合計額



評価

三和地域の公共交通再編に伴う市バスの運行内容見直しによって委託料を大幅に削減した。
 同時に、交通空白地有償運送「みわひまわりライド」やデマンド型乗合タクシー「姫髪乗合タクシー」の実証実験を行っているが、令和元年度までは平成27年度の決算値を上回らない範囲で実施できていた。
 しかし、新型コロナウイルス感染症の影響による収入の大幅減少や民間バスの経費増大によって、令和2年度は補助金額が大幅に増加し目標未達となった。
 なお、路線バスに対する欠損補助については、人件費や燃料費の影響を受けるため、増減幅が大きくなる。

6.3 基本方針

5章で示した課題と前計画の振り返りを踏まえて、「新：福知山市地域公共交通計画」の方針を以下のように定めます。

①：関連計画やまちづくり施策と整合した、市域全体の一体性の確保、広域拠点の向上に資する公共交通ネットワークの形成

②：地域の実情やニーズに適応した多様な交通体系の組み合わせによる、効率的で利便性を確保した交通体系の形成

③：少子高齢化、人口減少などの社会環境やニーズの変化に対応したフレキシブルで持続可能な生活移動手段の確保

④：市民、交通事業者、行政及び各種団体等全ての関係者の理解と協働による輸送資源の総動員と利用促進

⑤：先進技術を活用した効率的な移動手段の確保と安全性・利便性の向上

6.4 計画目標

基本方針を達成するための計画の目標を次のように定めます。

表 6-8 計画目標 1 (指標 1-①)

目標 1 : 利用しやすいバス交通を確保します。	
指標 1-①	市民 1 人あたりの年間路線バス利用回数
指標の考え方	市民が利用しやすい公共交通ネットワークが形成されていること評価するために、路線バスが利用されていることを確認することにより評価を行います。
指標の内容	市民 1 人当たりの年間路線バス利用回数 = 全路線の年間路線バス利用者数 / 総人口 利用回数 / 総人口 = 単位 (回 / 人)
目標値	コロナ禍による公共交通の利用減少等の影響を考慮して、令和元年度の実績と同程度の水準を目標値として定めます。 目標値 : 7.0 回 / 人
評価方法	利用回数 : 運行事業者からの利用実績データを利用します。集計期間はバス事業者の事業の計画を踏まえて 10 月 ~ 翌年 9 月までを 1 年間とします。 総人口 : 福知山市が集計している人口データを利用します。対象時期は集計期間内の 3 月末とします。
評価の時期	毎年評価を実施します。

バス路線評価基準

評価指標		バス路線の収支率 (%)		参考年間利用者数 (人)	
		現況値 (R3)	目標値 (R8)	現況値 (R3)	目標値 (R8)
京都交通バス	福知山綾部線	59.2%	62.7%	57,455人	95,093人
	長田野線	60.2%	66.6%	56,016人	92,451人
	堀循環線	44.7%	51.5%	25,749人	44,376人
	岩間線	33.9%	31.1%	536人	686人
	岩間循環線	24.6%	29.2%	2,318人	3,803人
	川北線	16.4%	20.4%	1,096人	1,796人
	小牧線	28.1%	31.2%	7,239人	13,150人
	夜久野線	42.8%	53.6%	19,740人	33,754人
	大江線	50.9%	59.6%	26,236人	43,320人
	まちなか循環 北	23.8%	27.1%	8,378人	13,735人
	まちなか循環 光秀 ルート	25.0%	29.4%	1,202人	2,007人
	まちなか循環 南	30.5%	34.4%	13,972人	23,245人
	三和線	22.3%	25.6%	38,609人	44,322人
中京交通バス	園福線 (桧山～下ノ段)	22.3%	40.0%	10,017人	21,939人
丹後海陸交通バス	福知山線	37.3%	40.0%	12,775人	21,131人
三岳バス		15.9%	30.0%	1,816人	2,958人
庵我バス		23.0%	30.0%	4,457人	7,396人
中六人部バス		34.1%	30.0%	5,802人	9,509人
三和バス	細身線	1.7%	4.2%	183人	316人
	川合大原線	25.4%	24.8%	14,051人	23,245人
	菟原線	20.1%	20.1%	917人	1,532人
	友渕支線	2.8%	5.4%	841人	1,373人
夜久野バス	直見線	7.7%	9.6%	2,576人	4,226人
	畑線	3.5%	5.7%	1,286人	2,113人
	板生千原線	5.1%	7.1%	1,924人	3,169人
大江バス	大江山の家線	4.6%	6.8%	1,827人	3,011人
	二箇下線	4.0%	7.5%	2,230人	3,698人

表 6-9 計画目標 1 (指標 1-②)

指標 1-②	敬老乗車券の購入冊数を増やします。
指標の考え方	敬老乗車券の利用を促進するための、周知がどの程度行われているのかを評価するために、敬老乗車券の認知度により評価を行います。 高齢化がより一層進展することが想定されることから、高齢者が路線バスを利用していることを確認することにより評価を行います。
指標の内容	敬老乗車券の年間販売冊数
目標値	認知度 令和 2 年度の調査結果を踏まえて市民アンケート調査結果での敬老乗車券の認知度が向上していることを目標とします。 目標値：市民アンケートでの認知度 43%以上 年間販売冊数 令和元年度の実績と同程度の水準を目標値として定めます。 目標値：年間販売冊数 4,000 冊／年
評価方法	認知度：市民アンケートでの認知度を評価します。 年間販売冊数：年間の販売冊数で評価します。
評価の時期	認知度 次回市民アンケートの実施時期である令和 8 年度とします。 年間販売冊数 毎年評価を実施します。

表 6-10 計画目標 2 (指標 2-①)

目標 2 : 公共交通のネットワークを充実させます。	
指標 2-①	自家用車を利用しない市民の日常移動に対する満足度を向上させます。
指標の考え方	日常生活の移動手段が路線バスである人の、公共交通に対する満足度を確認することによって、公共交通ネットワークの充実度を評価します。
指標の内容	令和 8 年度に市民アンケートを実施し、アンケートの「満足」、「やや満足」、「やや不満」、「不満」の 4 段階評価を実施し、「満足」と回答した人の割合を評価します。
目標値	令和元年度の実績と同程度の水準を目標値として定めます。 目標値 : 満足 40%以上
評価方法	令和 8 年度に市民アンケート調査を実施します。
評価の時期	令和 8 年度に評価を実施します。

表 6-11 計画目標 2 (指標 2-②)

指標 2-②	利便性や効率性の向上を目指して、新規技術 (MaaS、AI オンデマンド交通、自動運転技術、キャッシュレス化、安全運転管理システム) 等の活用の研究に取り組みます。
指標の考え方	近年技術革新が著しい MaaS 等の公共交通利便性促進に期待がかかる新規技術について、技術の状況を踏まえながら、福知山市内における実現可能な取組について、研究を行います。
指標の内容	I C T 等を活用してバス運行データを収集し、課題抽出を行うとともに先進技術の活用に向けた基礎データとします。
目標値	課題抽出件数 1 路線につき 1 件 / 1 年
評価方法	I C T 等を活用して収集したバス運行データについて、年 1 回評価を行い課題を抽出します。
評価の時期	毎年評価を実施します。

表 6-12 計画目標 3 (指標 3-①)

目標 3 : 将来にわたり持続可能な交通移動手段を維持・確保します。	
指標 3-①	公共交通を持続的に利用してもらうために、「路線マップ時刻表&レール時刻表」の周知を行います。
指標の考え方	公共交通に関する興味・関心が向上していることについて、「路線マップ時刻表&レール時刻表」の認知度での評価を実施します。
指標の内容	令和 8 年度に市民アンケートを実施し、アンケートの「路線マップ時刻表&レール時刻表」について「知っている」人の割合を評価します。
目標値	令和 2 年度の調査結果 (50.7%) を踏まえて目標値を定めます。 目標値 : 60%以上
評価方法	令和 8 年度に市民アンケート調査を実施します。
評価の時期	令和 8 年度に評価を実施します。

表 6-13 計画目標 (指標 3-②)

指標 3-②	一定の支援事業費の中で最大限効率的に地域公共交通網を維持します。
指標の考え方	市民アンケート調査結果においても、福知山市の財政負担については「財政負担が増えてもやむを得ない」(31.7%)と「財政負担を増やさずに工夫をすべき」(32.3%)と拮抗しています。 コロナ禍の状況を踏まえつつ、市の公共交通に対する財政負担について、一定の目標値を定めることにより、持続可能な交通移動手段の維持・確保について、評価を行います。 また路線バスの収支率について、目標値を定めることにより、効率的に運用されているかを評価します。
指標の内容	市財政負担額 鉄道を除く地域公共交通の維持・確保に必要な財政負担について、令和 4 年度～令和 8 年度の平均値が平成 28 年度～令和 2 年度の平均値を上回らない額とします。 収支率 福知山市地域公共交通再編実施計画において定めたバス路線評価基準程度を目標値として定めます。
目標値	市財政負担額目標値 : 令和 4 年度～令和 8 年度の市財政負担額の平均値が平成 28 年度から令和 2 年度の平均値 (103,713,297 円) を上回らない 収支率目標値 : 民間バス 40%以上、自主運行バス 30%以上 市バス 10%以上
評価方法	市の決算データに基づき評価を行います。
評価の時期	毎年状況を確認しつつ、令和 8 年度に評価を実施します。

7. 計画目標を実現するための具体的な事業

計画目標を実現するために、次の事業に取り組みます。

表 7-1 市民協働型利用促進事業

区分	目標 番号	具体的な取組	実施主体	実施期間	内容
継続	1	モビリティ・マネジメント(MM)の推進	運行事業者 市 地域 学校	令和4年度 ～ 令和8年度	バスのバリアフリーに関する工夫や環境に優しい乗り物であることの理解と公共交通の必要性と利用に対する意識の啓発を実施します。
変更	1	学校へのバス運行情報の提供	運行事業者 市 学校	令和4年度 ～ 令和8年度	高校生の通学利用を促進するため、路線図や時刻表の配布など、学校に対し路線バスの運行情報を提供します。
継続	1	路線バスおでかけツアーの実施	市民(イベント実施者) 運行事業者 市	令和4年度 ～ 令和8年度	路線バスを利用して商業施設や公共施設にアクセスできることを体験してもらいます。
変更	1	夏休み子どもお出かけバスチケット事業	市民(イベント実施者) 運行事業者 市	令和4年度 ～ 令和8年度	おとな1人につき同伴の小学生以下2人までの乗車運賃を無料とする取組を夏休み期間中に実施し、家族で公共交通を利用するきっかけづくりを行い、利用促進を図ります。
継続	1	市内イベント路線バス活用事業	市民(イベント実施者) 運行事業者 市	令和4年度 ～ 令和8年度	市内で行われるイベントのチラシにバス路線や時刻表を掲載し、公共交通での来場を呼びかけます。また公共交通のダイヤに配慮した開催時間を検討します。
継続	1	敬老乗車券事業	運行事業者 市	令和4年度 ～ 令和8年度	高齢者を対象としたお得な共通乗車券により公共交通の利用促進を行います。出張臨時販売を実施して購入しやすくします。
継続	1	運転免許証自主返納者への支援	市民 運行事業者 市	令和4年度 ～ 令和8年度	運転免許証の自主返納のきっかけづくりと、応援協賛事業者との協働により自主返納者を支援します。

表 7-2 バス情報発信事業

区分	目標番号	具体的な取組	実施主体	実施期間	内容
継続	3	わかりやすい時刻表と路線図の発行	運行事業者 市 地域公共交通会議	令和4年度 ～ 令和8年度	わかりやすく便利な時刻表及び路線図を作成します。
継続	1	出前講座の開催	運行事業者 市 地域	令和4年度 ～ 令和8年度	市民の路線バスに対する関心を高めるため、路線バスに関する出前講座を開催します。出前講座の内容は、申出のあった地域や団体と調整します。
継続	3	広報ふくちやま及び市ホームページによる利用促進の呼びかけと、利用者状況、収支状況等の定期的な公表	市	令和4年度 ～ 令和8年度	路線バスの利用促進に向けた呼びかけを行うとともに、路線バスに対する関心を持ってもらうため、定期的に路線ごとの利用者状況、収支状況等について、路線評価基準と対比しながら公表し、利用促進を図るとともに、改善されない場合には運行内容見直し路線となることを事前に周知します。
継続	1	交通結節点におけるわかりやすい情報提供の検討	運行事業者 市	令和4年度 ～ 令和8年度	駅やバス停など乗り換えが多い場所において、わかりやすい案内を検討します。また、鉄道駅ホーム内に路線バスの時刻表を掲示するなど、乗り継ぎしやすい情報を提供します。
継続	1	わかりやすい車両やバス停の行き先表示	運行事業者 市	令和4年度 ～ 令和8年度	車両やのりば、バス停において、わかりやすい表示を行います。
継続	2	公共交通利用実態市民アンケートの実施	地域公共交通会議	令和8年度	目標の達成状況や事業評価を行うため公共交通の利用実態やその満足度に関する市民アンケートを行います。
継続	1	路線バス沿線の行楽情報の発信	運行事業者 市	令和4年度 ～ 令和8年度	沿線のタイムリーな行楽情報を発信することで、利用促進を図ります。
新規	1	経路検索等に必要となるデータの提供	運行事業者 市	令和4年度 ～ 令和8年度	経路検索等に必要となる時刻表、運賃、路線等について、標準的なバス情報フォーマットである GTFS データ（公共交通機関の時刻表と地理的情報に関するオープンフォーマット）の整備を行います。

表 7-3 バス路線再編評価事業

区分	目標番号	具体的な取組	実施主体	実施期間	内容
継続	3	評価基準に基づく「運行内容見直し路線」の選定	地域公共交通会議	令和4年度	決算の数値にて、評価基準に基づく評価を行い、「運行内容見直し路線」を選定します。
継続	3	「運行内容見直し路線」の公表	地域公共交通会議	令和4年度	選定した「運行内容見直し路線」の公表を行います。
継続	3	住民懇談会の実施	地域公共交通会議 地域	令和4年度 ～ 令和8年度	地域住民に対して、選定した「運行内容見直し路線」についての説明を行うとともに、地域に適した運行形態、運行体系への再編について協議や検討を行います。また、「便数の削減」、「運行体系の変更」、「路線が廃止になる可能性がある場合には地域主体による新たな運行の検討」などを説明します。
継続	3	住民アンケートの実施 地域による利用促進の推進	地域	令和4年度 ～ 令和8年度	評価内容の説明と今後の利用変化の意向を確認します。
継続	3	運行内容の検討・利用者負担の検討	運行事業者 市 地域	令和4年度 ～ 令和8年度	運行内容(運行形態・ルート・ダイヤ・運賃)の検討を行います。(調整可能なものから順次)
継続	3	見直し内容の決定	運行事業者 市 地域公共交通会議	令和4年度 ～ 令和8年度	見直し内容の決定を行います。(調整可能なものから順次)
変更	3	地域公共交通特定事業の検討	地域公共交通会議	令和4年度 ～ 令和8年度	必要に応じて地域公共交通特定事業(地域公共交通利便増進事業、貨客運送効率化事業、地域旅客サービス継続事業等)についての検討を行います。
変更	3	地域公共交通特定事業に必要な調査の実施及び計画策定	地域公共交通会議	令和4年度 ～ 令和8年度	必要に応じて地域公共交通特定事業(地域公共交通利便増進事業、貨客運送効率化事業、地域旅客サービス継続事業等)の実施に必要な調査を実施し、事業の実施に向けた計画策定を行います。
変更	3	地域公共交通特定事業の実施	地域公共交通会議	令和4年度 ～ 令和8年度	策定した事業の計画に基づいて、地域公共交通特定事業(地域公共交通利便増進事業、貨客運送効率化事業、地域旅客サービス継続事業等)を実施します。

区分	目標番号	具体的な取組	実施主体	実施期間	内容
継続	1	車両の最適化	運行事業者市	令和4年度～令和8年度	車両の更新時期に合わせて、需要にあった乗車定員の車両に更新します。その際には、バリアフリー化(低床バスの導入)についても可能な限り配慮します。
継続	1	利用実態に合わせた利用しやすいダイヤ改正の検討	運行事業者市	令和4年度～令和8年度	利用者の利用実態を把握し、地域のニーズと利用予測に見合った利用しやすいダイヤ改正を検討します。

表 7-4 乗継改善事業

区分	目標番号	具体的な取組	実施主体	実施期間	内容
継続	1	乗継ダイヤの調整	各運行事業者	令和4年度～令和8年度	鉄道のダイヤ改正に合わせたバスの時刻改正やバスからバスへの乗り継ぎ利用者の利便性の向上を目指し、乗り継ぎ実態に応じた必要な調整を行います。
継続	1	乗継割引制度の可能性の検討	各運行事業者 地域公共交通会議	令和4年度～令和8年度	市域全体を見渡したバス利用者の乗り継ぎ改善と利用促進の観点から、自社間及び他社との割引制度の可能性について検討します。
継続	1	乗継拠点、待合環境の整備	地域運行事業者市	令和4年度～令和8年度	乗り継ぎ利用者の実態に応じて、必要な拠点での乗り継ぎ環境の確保を目指し、乗り継ぎ拠点、待合環境の整備を検討します。

表 7-5 デマンド実証実験事業

区分	目標番号	具体的な取組	実施主体	実施期間	内容
継続	3	見直し路線についてデマンド型の運行案の検討	該当する運行事業者	令和4年度～令和8年度	バス路線評価基準に基づき、見直しを要する路線等についてデマンド型の運行システムの導入を検討します。
継続	3	対象地域の利用実態調査	地域公共交通会議	令和4年度～令和8年度	利用者の実態を把握し、地域のニーズに合った運行体系を検討します。
継続	3	住民説明	該当する運行事業者 地域公共交通会議	令和4年度～令和8年度	デマンド運行案の説明を実施します。
継続	3	実証実験開始	運行事業者	令和4年度～令和8年度	見直し内容の実証実験を開始します。(調整可能なものから順次)

表 7-6 交通空白地の地域コミュニティ交通支援事業

区分	目標番号	具体的な取組	実施主体	実施期間	内容
継続	3	実施主体との運行体系案の検討	実施主体市	令和4年度～令和8年度	運行主体とともに必要な運行体系案について検討を実施します。
継続	3	関係者との調整の支援	地域公共交通会議 有償運送運営協議会	令和4年度～令和8年度	関係事業者と実施主体との調整の支援を実施します。
継続	3	法的手続きの支援	実施主体市	令和4年度～令和8年度	実施主体による運輸局等への手続きについての支援を実施します。

表 7-7 スクールバス活用検討事業

区分	目標番号	具体的な取組	実施主体	実施期間	内容
継続	3	教育委員会、学校、PTA等との今後の活用の可能性について協議	教育委員会市 学校 PTA	令和4年度～令和8年度	路線バスの利用実態とスクールバスの運行状況を分析する中で、今後の可能性について検討を実施します。
継続	3	活用案の検討と関係者との調整	教育委員会市 学校 PTA	令和4年度～令和8年度	活用案の検討と関係者との調整を実施します。
継続	3	法的手続きの支援	実施主体と市	令和4年度～令和8年度	文部科学省や運輸局等への手続きを実施します。

表 7-8 新規技術活用検討事業

区分	目標番号	具体的な取組	実施主体	実施期間	内容
新規	2	ICT・先進技術等活用の検討	運行事業者市	令和4年度～令和8年度	MaaS、AIオンデマンド交通、自動運転技術、キャッシュレス化、バスロケーションシステム、デジタルサイネージ等の活用検討を推進します。

表 7-9 園福線地域旅客運送サービス継続事業

区分	目標番号	具体的な取組	実施主体	実施期間	内容
新規	2	利用実態に合わせた利用しやすいダイヤの調整、運行開始	運行事業者市	令和6年度～令和8年度	運行の維持が困難な園福線(西日本ジェイアールバス)について、地域旅客運送サービス継続事業を実施し、運行を維持・効率化する。

8. 計画の達成に向けた体制と評価について

8.1 計画の実施体制

計画の実現に向けて、福知山市、公共交通事業者、NPO、地域住民がそれぞれ役割分担に基づいて、協力し、事業を実施します。

事業の実施方法等については、地域公共交通会議の場等を活用し、協議を行っていきます。

8.2 計画の達成状況と評価の見直し

事業の実施状況については、地域公共交通会議を毎年開催し、事業の進捗状況や達成状況及び目標の達成に向けた評価指標のモニタリング結果を確認し、事業の改善や見直し、新たな取組等について、協議を行っていきます。また、評価結果については地域公共交通会議での協議後、速やかに国に提出します。

表 8-1 計画達成状況のモニタリング計画

目標	指標	モニタリング時期				
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
1. 利用しやすいバス交通を確保します。	市民1人あたりの年間路線バス利用回数	○	○	○	○	○
	敬老乗車券の年間販売冊数	○	○	○	○	○
	敬老乗車券の認知度（市民アンケート）	—	—	—	—	○
2. 公共交通のネットワークを充実させます。	自家用車を利用しない市民の日常移動に対する満足度	—	—	—	—	○
	新規技術の活用研究件数	○	○	○	○	○
3. 将来にわたり持続可能な交通移動手段を維持・確保します。	「路線マップ時刻表&レール時刻表」の認知度（市民アンケート）	—	—	—	—	○
	市財政負担額	○	○	○	○	○